

施工要領

本書は「テクヒーター」[T-12]を現場で切って施工する際の絶縁封止とその検査に適用されます。
必ず本書をよくお読み頂いた上で、確実な施工・検査を行ってください。



「テクヒーター」の施工には電気工事士の資格が必要です。

■用意するもの

●使用工具

- ・ドライバー（±）
- ・ラジオペンチ、ニッパー
- ・カッターナイフ、ハサミ
- ・電工ペンチ
- ・熱収縮チューブを過熱するもの（ヒートガンなど）

※電気工事で使用する一般的な工具で施工できます。

●絶縁封止キット（「テクヒーター」専用部品）

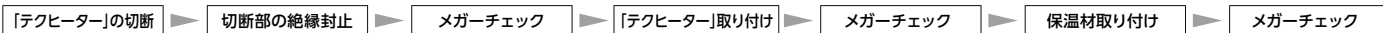
「テクヒーター」専用部品として以下の絶縁封止キットがあります。

- ・端末部用
- ・電源コード接続部用

●検査用測定器

- ・絶縁抵抗計
（500V メガー：100MΩまで測定可能なもの）
- ・電圧計
- ・電流計
- ・抵抗計

■作業手順（一般的な「テクヒーター」の作業手順は以下の通りです。）



■絶縁封止処理方法

ヒーター 端末部

●絶縁封止キットの「端末部用」を使用

- a. 端末処理部品
（ケース、蓋）各 1 個



- b. シーリング剤



●処理手順

- ①「テクヒーター」の外装被覆及び編組シールドを10mm切断します。
- ②「テクヒーター」を端末処理部品（ケース）に20mm 挿入します。（写真 1）
※本工程でケガキ線をいれておくと、ケースからヒーターが飛び出していないかを確認することが容易になります。（写真 1）
- ③端末処理部品（ケース）に2液混合をしたシーリング剤を注入します。（写真 2）
※シーリング剤の混合比率は 50 : 50 です。よくかき混ぜてから注入してください。
※シーリング剤の注入不足は絶縁不良の原因となりますので、十分に注入してください。
- ④端末処理部品（蓋）を被せ、しっかりと固定します。（写真 3）
※硬化時間の目安は30分です。硬化中はシーリング剤が発熱しますので、ご注意ください。
※蓋の浮きが無いかご確認ください。
※ケガキ線が所定の位置にあることを目視確認し、ヒーターがケースから抜けてきていないことをご確認ください。

⚠ シーリング剤硬化後に、絶縁処理部を30分程度水没させてからメガーチェックし、正しく絶縁処理がされていることを確認してください。

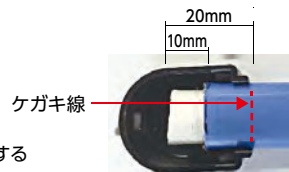


写真 1



写真 2



写真 3

電源コード 接続部

●絶縁封止キットの「電源コード接続部用」を使用

- a. 電源コード接続部品
（ケース、蓋）各 1 個



- b. シーリング剤



- c. 収縮チューブ 3本



- d. 圧着端子 3個



●処理手順

- ①電源コード及び「テクヒーター」の接続箇所を下図のように加工します。（図 1）
- ②ヒーターと電源コードの3本の線を、圧着端子と収縮チューブを用いて接続し、電源コード接続部品（ケース）に入れます。（写真 4）
※収縮チューブはヒーターの内側被覆（白色）に被せてください。
- ③電源コード接続部品（ケース）に2液混合したシーリング剤を注入します。（写真 5）
※シーリング剤の混合比率は 50 : 50 です。よくかき混ぜてから注入してください。
※シーリング剤の注入不足は絶縁不良の原因となりますので、十分に注入してください。
- ④電源コード接続部品（蓋）を被せ、しっかりと固定します。（写真 6）
※硬化時間の目安は30分です。硬化中はシーリング剤が発熱しますので、ご注意ください。
※蓋の浮きが無いかご確認ください。

⚠ シーリング剤硬化後に、絶縁処理部を30分程度水没させてからメガーチェックし、正しく絶縁処理がされていることを確認してください。



写真 4



写真 5



写真 6

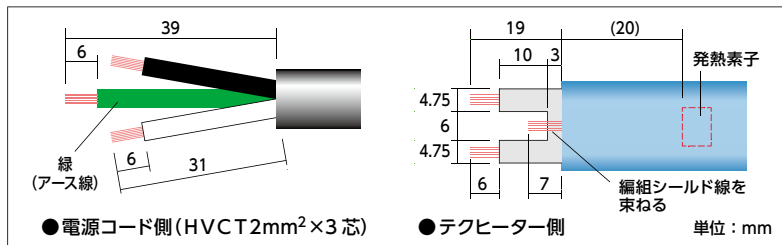


図 1

取り扱い注意事項

「テクヒーター」は、外装被覆の損傷防止に特に留意してください。被覆の損傷は、絶縁抵抗の低下や漏電事故につながる恐れがあります。メガーチェックで異常があった場合は使用しないでください。

●地面を引きずらないでください。●設置箇所に被覆を損傷させるようなバリや鋭利な物がないことを確認してください。●安全靴などで踏み付けしないでください。●重量物などをヒーターの上に載せないでください。●ヒーターを強く引っ張ったり無理な力を加えないようにしてください。●敷設したヒーターの上には他の発熱体や金属類を設置しないでください。●保温材の浸水処理を行ってください。（保温効果維持、絶縁劣化防止の観点）●医療用途には使用しないでください。